

新燃岳 2017 年 10 月 11 日噴火の降灰調査結果

防災科学技術研究所 三輪 学央、長井 雅史、入山 宙

新燃岳 2017 年 10 月 11 日噴火で噴出した火山灰について、10 月 11 日 16:00 から 19:00 にかけて分布調査を行った。本調査による最大降灰量は火口から 5.9km の夷守台付近の $787\text{g}/\text{m}^2$ であり(図 1)、降灰分布軸は新燃岳火口からほぼ東方向に伸びていたと推定される(図 2)。最大降灰量と距離の関係から、高原町市街には $100\sim 500\text{g}/\text{m}^2$ 程度の降灰があったと考えられる。また、高崎川上流域では $1,000\text{g}/\text{m}^2$ を超える降灰があったと予測される。以上の結果は今後の精査により修正されることがある。また、各機関が調査した結果と統合され、噴出量・噴火規模の推定等に利用される予定である。



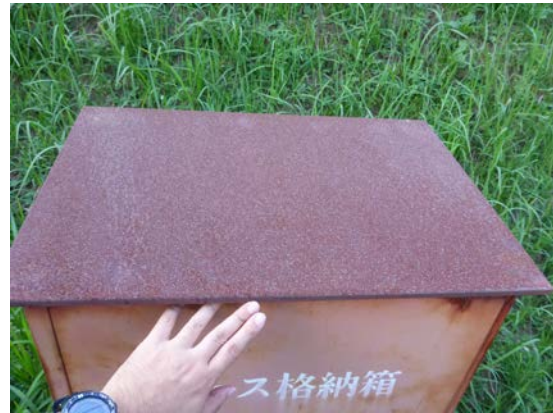
(a) 夷守台登山口付近



(b) 皇子原公園



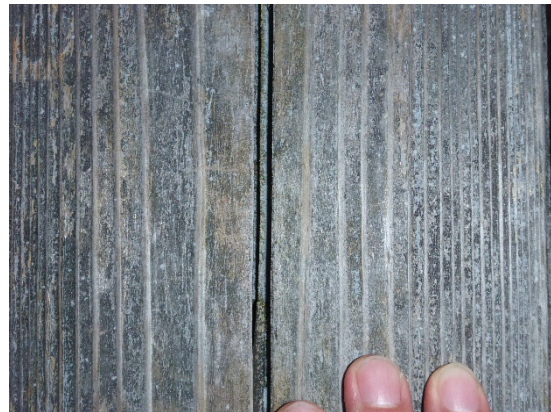
(c) 後原



(d) 小林市畜産改良センター



(e) 旭野



(f) 御池展望台



図 1. 調査時の降灰状況. (a)夷守台登山口付近. 火口東 5.9 km. 降灰量 787.0 g/m². (b)皇子原公園. 火口東 7.1 km. 降灰量 83.3 g/m². (c)後原. 火口東 7.9 km. 降灰量 86.9 g/m². (d) 小林市畜産改良センター. 火口東北東 8 km. 降灰量 微量. (e) 旭野. 火口東北東 8.9 km. 降灰量 30.4 g/m². (f) 御池展望台. 火口東南東 9.2 km. 降灰量 微量. (g) 頭方. 火口東南東 8.2 km. 降灰量 33.2 g/m².

(g) 頭方

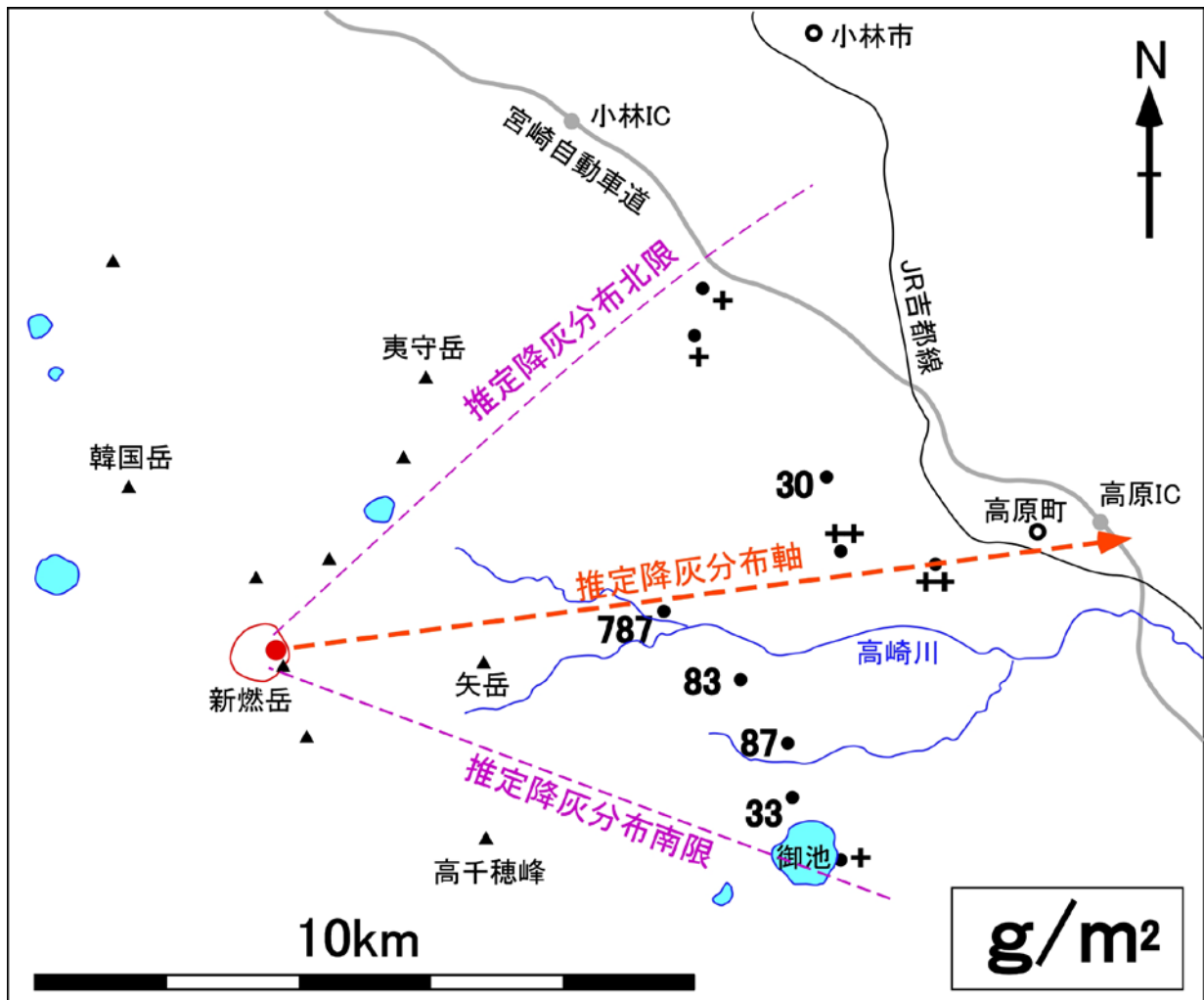


図 2. 降灰量分布